



美しい 県土づくりNEWS

2022年

12月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第220号
令和4年12月8日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 一般国道107号大石地区災害復旧事業
11月30日に仮橋を供用開始しました！
- 5 昭和橋の「渡り納め会」を開催しました！！
- 7 いわて建設業みらいフォーラム2022を開催しました！
- 9 令和4年度いわての地域づくり・道づくりを考える大会開催
- 11 橋梁メンテナンス工事現場見学会を開催しました！！
- 13 小学生を対象とした「土砂災害と津波の出前講座」を開催しました！
- 15 「いわてフォーラム2022in東京～いわての産業と港湾の未来～」を開催！
- 16 県内各地で景観学習を開催しています！
- 17 第20回岩手「道の駅」スタンプラリーが始まりました！

三陸復興

一般国道107号大石地区災害復旧事業 11月30日に仮橋供用開始！！

【供用開始を待つ車列】



～道の駅錦秋湖 営業再開！～

一般国道107号大石地区災害復旧事業

11月30日に仮橋を供用開始しました！

県南広域振興局土木部北上土木センター

一般国道107号西和賀町大石地区は、令和3年5月の地すべりにより通行止めが続いており、厳しい現場条件の中、積雪期前の11月30日(水)に地すべり箇所を迂回する仮橋を供用開始しました。国土交通省北上川ダム統合管理事務所をはじめとするダム関係者、西和賀町などの皆様のご協力により予定通り供用開始できたことに感謝申し上げます。

【仮橋を通行する車両】



道の駅錦秋湖も営業を再開し、運営する西和賀産業公社の社長である内記西和賀町長の挨拶に続き来場者プレゼントなどの大感謝キャンペーンイベントが開催され、営業再開を待ち望んだお客様により駅内は賑わいを取り戻していました。

【にぎわう道の駅錦秋湖】



仮橋(約470m)は片側交互通行です。時間に余裕をもってお出かけくださいますようご理解とご協力をお願いいたします。なお、仮橋の周辺状況がわかるように道路監視カメラを増設するとともに、**県ホームページに特設ページ**(<http://www.douro.com/kitakamidoboku/r107/>)**を開設**しました。お出かけの際の事前の道路状況確認に活用ください。

国道107号北上市～西和賀町間 総合情報ページ

国道107号北上市～西和賀町間のカメラ設置箇所

カメラ設置箇所(全9基)

西和賀町大石地区 う回路の概要

仮橋(約470m)の通行規制

- ★ 片側交互通行です
- ★ 以下の異常気象発生時は通行止とします

吹雪・大雪 ※見通しが悪い場合や、スタック等の恐れがある場合	地震 ※震度6以上の場合
強風 ※非常に強い風を観測した場合	地すべり ※地すべりが発生する恐れがある場合

冬タイヤ・チェーン装着を確実にお願いします。

お知らせ 仮橋は片側交互通行です。詳細は >こちらをクリック

大石地区う回路(仮橋)周辺路面監視カメラ情報



これから本格的な冬を迎えます。皆さんが安全・安心に通行できるよう路面管理や除雪などに取り組んでまいります。

令和4年 **11月30日** (水) 午前11時～



国道107号北上市～西和賀町間の 通行が可能になります！

同時に 秋田道(北上西IC～湯田IC)の無料措置が終了します



う回路の概要



仮橋(約470m)の通行規制

- ★ 片側交互通行です
- ★ 以下の異常気象発生時は通行止とします

吹雪・大雪	地震
※見通しが悪い場合や、スタック等の恐れがある場合	※震度6以上の場合
強風	地すべり
※非常に強い風を観測した場合	※地すべりが発生する恐れがある場合

今後の見通しについて

現在、令和8年度の完了を目指し、現道の北側に新たなトンネル等を新設する事業を進めております。

当面の間、御不便をおかけしますが、時間に余裕を持ってお出かけくださいますよう、御理解、御協力をお願いいたします。

国道107号の通行規制・ライブカメラ情報

岩手県道路情報提供サービス

北上エリア通行止情報 Twitter

パソコン用 スマートフォン用

北上市、西和賀町の県管理道路の通行規制情報



国道107号に関するお問い合わせ先
岩手県 北上土木センター
TEL:0197-65-2738

昭和橋の「渡し納め会」を開催しました！！ ～90年間ありがとう～

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター住田整備事務所

住田町のシンボルとして90年にわたり町民に親しまれ、その役目を終えようとしている昭和橋に「ありがとう」の感謝の意を込めて渡し納め会を開催しました。



昭和橋の架替について

二級河川気仙川では、平成27年度より陸前高田市竹駒から住田町向川口までの延長12.8kmを対象に「広域河川改修事業」として、築堤・護岸、河道掘削、流下能力が不足する昭和橋の架替整備などを鋭意進めています。

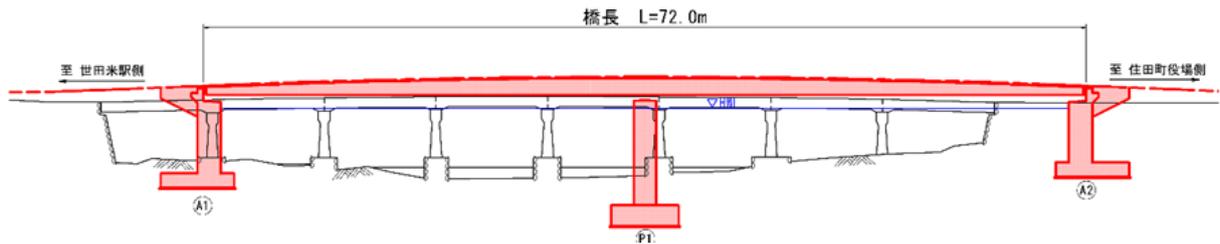
住田町に位置する昭和橋（町道役場前線）は、昭和8年に架橋され、通学など日々の暮らしや地域の交流を支える橋として、長く町民に愛されてきましたが、橋脚の径間長や橋桁の高さが不足していることから、洪水時に流木などが川の流れを堰き止め、周辺に甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、早期の架け替えが必要となりました。

架替工事は、令和4年11月より現橋の撤去に着手し、新橋は令和7年度末の供用開始を目指しています。





【平面図】



渡り納め会について

これまで、町民に親しまれてきた昭和橋を撤去するにあたり、住田町と県の共催により、令和4年11月4日（金）に「**渡り納め会**」を開催しました。

渡り納め会では、世田米小学校、地元老人クラブなど地域住民の約100人が参加し、地元小学生がデザインした「**ありがとう昭和橋**」と書かれた横断幕を持って橋を歩き、地元老人クラブから未来を担う世田米小学校の児童へメッセージが贈られました。



いわて建設業みらいフォーラム 2022 を開催しました！

建設技術振興課

令和4年 11月1日(火)、岩手県民会館大ホールにて、2年ぶりに「いわて建設業みらいフォーラム 2022」を開催しました。

本フォーラムは、県民の安全で安心な暮らしに果たす建設業の役割やその魅力を積極的に発信することで、建設業のイメージアップを図り、次世代を担う若者をはじめとした県民の建設業への理解や関心を高めることを目的としたもので、今回で9回目の開催となります。

新型コロナウイルス感染症対策として一般の方の参加を見合わせ、県内の高校生・短大生約300名の方々に参加いただきました。若手技術者による取組発表や建設業で働く面白さや労働環境などについてのパネルディスカッション、企業ブースでの建設企業の紹介、技術展示を行いました。

第1部 オープニングトーク、若手技術者による取組発表

「オープニングトーク」では、コーディネーターの県建設業協会青年部連絡協議会会長の千葉智充さんと司会者の千葉星子さんが、県内の建設業の状況や、地域における建設業の役割についての紹介、フォーラムを通じて学んでほしいことや感じてほしいことを伝えました。

その後、若手技術者2名から取組発表を行い、仕事内容や入職したきっかけ、働いてみて感じた建設業の重要性について、発表していただきました。



会場の様子



オープニングトーク



戸舘 由隆さん
(兼田建設㈱)



須藤 ひなたさん
(樋下建設㈱)

若手技術者の取組発表

第2部 パネルディスカッション

コーディネーターとして千葉智充さん、パネラーとして取組発表を行った若手技術者2名が参加し、「建設業で働く面白さ」、「建設業の労働環境」をテーマに、建設業で働くやりがいや、建設業の働き方改革についてパネルディスカッションを行いました。

「参加者からの質問コーナー」では、参加者を代表して久慈工業高校の生徒3名から、「就職する前に取得しておくべき資格」、「現場でのコミュニケーションの取り方」、「労働環境(休暇について)」など、疑問に思っていることや、不安に感じていることなどについて質問が行われました。



パネルディスカッションの様子



このほか、会場ロビーでは、県内建設会社による企業紹介や、けんせつ小町部会による相談コーナー、ICT建機メーカーによる技術展示が行われ、参加者が積極的に見学していました。

フォーラムの成果と今後に向けて

フォーラム実施後のアンケートでは、

- ・建設業で働く人達のおかげで自分たちが安心して暮らせているということに気付いて感動した。
- ・建設業と聞くとどうしても男性が思い浮かび、女性には難しいと考えていたが、建設業で働く女性の意見も聞くことができ、建設業もいいなと思えた。
- ・建設現場は厳しい環境というイメージが強かったが、実際は設備も整っていて休みもあり、仕事がしやすい環境だとわかった。
- ・建設業がこれからも成長していくと思うと、自分もその一員だと思いがんばろうと思った。
- ・自分の知らなかったことを知れたので良かった。建設業の悪いイメージがほとんどなくなった。といった好意的な御感想、御意見をいただきました。

今後も、いただいた御意見を活かしながら、フォーラムを実施していきます。

岩手県道路整備促進期成同盟会主催 令和4年度 いわての地域づくり・道づくりを考える大会 開催

道路建設課

令和4年11月4日（金）、花巻温泉ホテル千秋閣にて、岩手県道路整備促進期成同盟会（会長：花巻市長）主催で『いわての地域づくり・道づくりを考える大会』を開催しました。（共催：岩手県高規格幹線道路整備促進期成同盟会（会長：知事）、岩手県道路利用者会議（会長：盛岡市長））

大会には、山本 国土交通省東北地方整備局長を始め、県内の市町村長や県議会議員、関係団体など約220人に御出席いただきました。



大会の様子



主催者挨拶 上田 花巻市長



共催者代表挨拶 達増 知事(代読：八重樫 副知事)

上田 花巻市長は主催者挨拶で、『持続可能で質の高い地域づくりを実現していくため、高規格道路の暫定2車線区間の4車線化及びダブルネットワークの構築などに必要な道路予算を安定的・持続的に確保できるよう強く要望していく』と述べました。

達増 知事（代読：八重樫 副知事）は共催者代表挨拶で、『「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について、その取組を計画的に推進するために必要な予算を、通常予算とは別枠で確保するよう国に強く働きかけていくことが重要』と述べました。

また、来賓の方々を代表し、横沢 参議院議員、山本 国土交通省東北地方整備局長、五日市 県議会議長（代読：小野 県議会副議長）からそれぞれ祝辞をいただきました。



来賓祝辞
横沢 参議院議員



来賓祝辞
山本 国土交通省東北地方整備局長



来賓祝辞
五日市 県議会議長(代読：小野 県議会副議長)

大会では、『いわての地域づくり道づくり 新たな地域創生に向けて』と題して、山本 局長から復興道路の整備効果とこれからの地域創生に向けた道づくりや令和5年度概算要求の概要について講演をいただきました。

また、県内の道路を利用する方々から、それぞれの地域における実情を踏まえた道路の重要性や今後の利活用について意見を発表していただきました。

最後に、佐藤 一関市長が決議(案)を読み上げ、大会決議が採択され、上田 花巻市長から横沢 参議院議員に決議書を手交しました。

○ 県内の道路を利用する業種の方々による意見発表

【県央・県南地域】



大和ハウス工業株式会社 北東北支社
(右)支社長 三原 康展 氏
(左)建築事業部 主任 貝塚 貴光 氏

【テーマ】「時代の変化に対応する大和ハウス工業の物流ソリューションについて」

【主な発言内容】

- ・ 岩手県内には、半導体、自動車関連部品など、北東北方面への配送を手掛ける事業者のニーズがまだまだある。
- ・ 仙台を拠点とする企業が多い中、ドライバー不足等の背景もあり、働き方改革によって、北東北に拠点を構える必然性が出てくる。そのため、物流が円滑に行えるよう、道路整備の推進が必要。

【沿岸地域】



浄土ヶ浜海舟株式会社
専務取締役 山根 千春 氏

【テーマ】「三陸ブロックおもてなしビジネスとしての取り組み」

【主な発言内容】

- ・ 原材料高騰やコロナによるライフスタイルの変化で消費量・消費額が減少している今、仕出し弁当などの宅配事業への注力が必要であり、道路の利便性の向上が不可欠。
- ・ 交通ネットワークの大きな環境変化の機を捉えた復興・振興の推進が必要。

【県北地域】



株式会社北三陸ファクトリー
取締役 新領域開発担当
眞下 美紀子 氏

【テーマ】「北三陸の地域と産業を活性化する“ビジネスエコシステム”の構築
～ 地域づくり・道づくりから生まれる、北三陸ブランド ～」

【主な発言内容】

- ・ 復興道路の開通で、洋野～八戸間の輸送時間が約 25%カットされたことにより、余裕を持った生産体制づくりや、より鮮度を保つことが可能になった。
- ・ 道路が整うことで北三陸での地域連携がスムーズになった。



意見発表の様子



決議(案)読み上げ 佐藤 一関市長



上田 花巻市長から横沢 参議院議員へ決議手交

大会後には、11月10日(木)及び14日(月)に関係省庁等を訪問し、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について、その取組を計画的に推進するための必要な予算の確保や期間終了後においても、引き続き国土強靱化に必要な予算財源を別枠で確保すること、暫定2車線区間の4車線化及びダブルネットワークの構築などを要望しました。

県としては引き続き、市町村、関係者の皆様と連携し、安全・安心を支え、産業や観光振興の基盤となる社会資本の整備に向けて必要な予算確保に取り組んでいきます。

橋梁メンテナンス工事現場見学会を開催しました!!

～ 道路インフラメンテナンスの理解向上と土木技術者の担い手の確保・育成を推進～

道路環境課

県が管理する橋梁（約 2,800 橋）のうち、建設後 50 年以上経過する割合が現在の約 4 割から 20 年後には約 8 割と大幅に上昇する見込みであり、老朽化対策が深刻な課題となっています。

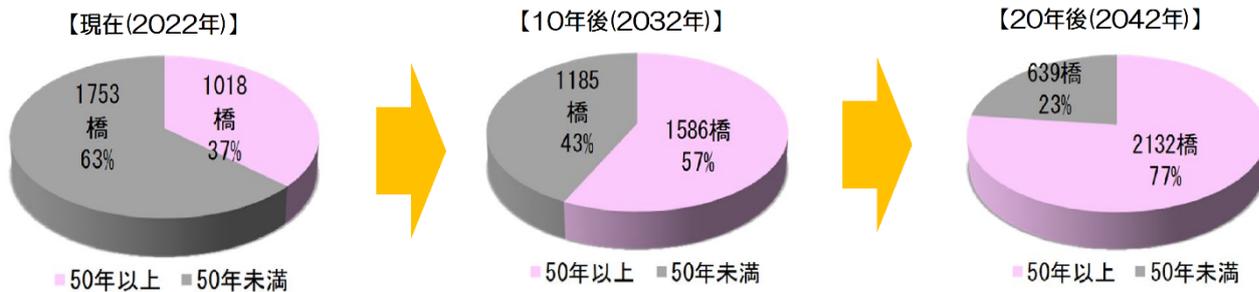
県では、将来のインフラメンテナンスなどを担う土木技術者の担い手の確保・育成を推進するため、令和元年度から県内の土木系学科を有する高校との協働による橋梁点検に取り組んでいます。令和 4 年度からは新たな取組として、早い段階から高校生にインフラメンテナンスに興味・関心を持ってもらうことを目的として、1・2 年生を対象とした「橋梁メンテナンス工事現場見学会」を開催することとしました。

今年度は、県内の土木系学科を有する 5 校の生徒、延べ 132 人が参加し、県が工事を進めている橋梁補修・補強工事の現場を見学しました。現場見学会では、仮設足場内に入り間近で橋梁の損傷などを見学したほか、工事で使用するボルトの締付作業体験などを行っていただきました。

現場見学会に参加した生徒からは、「橋梁メンテナンスの大切さを学んだ」、「足場内に入るなど貴重な体験ができた」との感想が寄せられました。

県では、今後も本現場見学会等を通じて、高校生に道路インフラメンテナンスの必要性や重要性の理解を深めてもらうとともに、将来のインフラメンテナンスなどを担う土木技術者の担い手の確保・育成を推進していきます。

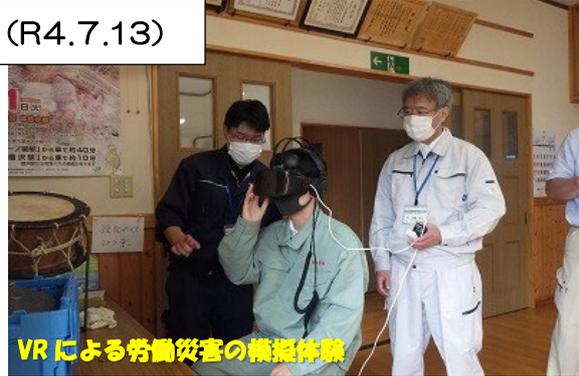
県管理橋梁の建設後50年が経過した割合



※県管理橋梁2,790橋のうち建設年次が確認できる2,771橋の内訳(令和4年3月末時点)

橋梁メンテナンス工事現場見学会の実施状況

対象高校	人数	実施年月日	工事名
久慈工業高校 建設環境科1・2年生	14人	R4.6.22	一般国道395号猿越橋耐震補強工事
			主要地方道一戸葛巻線薬師橋橋梁補修工事
一関工業高校 土木科1年生	39人	R4.7.13	一般国道343号板木橋橋梁補修補強工事
花巻農業高校 環境科学科1年生	24人	R4.10.6	一般県道東和花巻温泉線宮野目跨線橋橋梁補修工事
			一般国道396号早池峰大橋橋梁補修工事
黒沢尻工業高校 土木科1年生	19人	R4.10.12	一般国道107号鬼ヶ瀬橋橋梁補修工事
盛岡工業高校 土木科1年生	36人	R4.10.25	一般国道106号中の橋橋梁補修工事
			主要地方道盛岡横手線新田町跨線橋橋梁補修工事



小学生を対象とした 「土砂災害と津波の出前講座」を開催しました！

沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター

令和4年11月2日（水）、宮古土木センターでは山田町立船越小学校5年生（9名）を対象に、防災学習の支援として出前講座を開催しました。

出前講座では、「自然災害の知識習得及び適切な避難行動」を目的として、教室で土砂災害と津波の授業、屋外で模型を使用した土石流の実験及び、砂防堰堤工事や水門工事の現場見学を行いました。出前講座に参加した児童からは「砂防堰堤により避難の時間を稼ぐことができることが分かった」「今日のことを生かして早めに避難することを心掛けたい」等の感想がありました。

宮古土木センターでは、今後も引き続き管内の小学校で出前講座を計画していきます。

1 座学、模型実験

座学では、「土砂災害及び津波発生のメカニズム」や「避難方法と注意点」について映像を用いて説明しました。

また、模型を使用した実験を行い、土石流の動きと砂防堰堤の役割を説明しました。



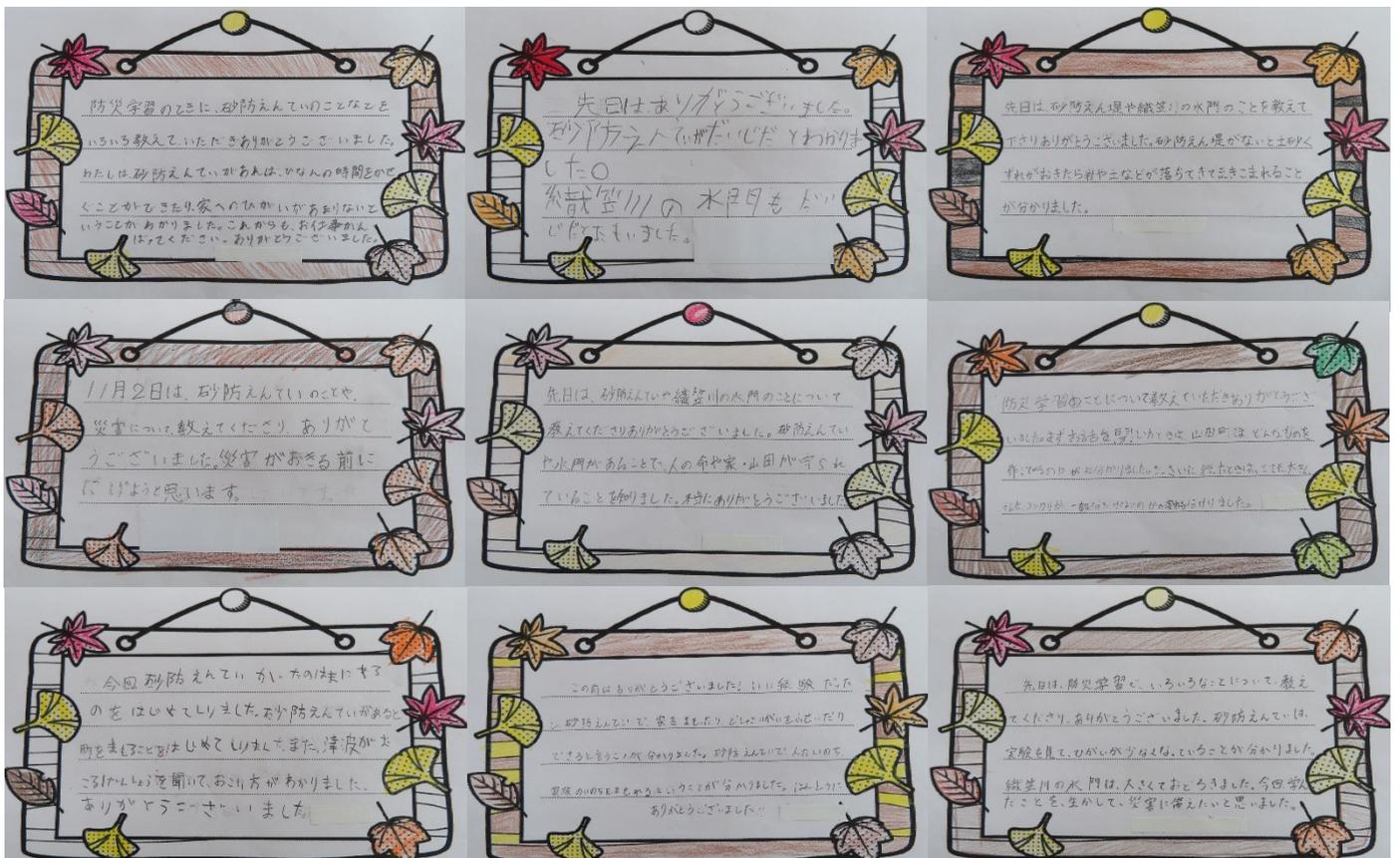
2 現場見学

土砂災害対策として施工中の田ノ浜沢砂防堰堤及び津波対策として施工中の織笠川水門を見学しました。



3 お礼の手紙

後日、山田町立船越小学校5年生からお礼の手紙をいただきました！



「いわてフォーラム 2022 in 東京 ～いわての産業と港湾の未来～」を開催！

港湾課

令和4年11月11日（金）に、「いわてフォーラム 2022 in 東京～いわての産業と港湾の未来～」を、東京で3年ぶりに開催し、200人を超える関係者にご来場いただきました。

本フォーラムは、首都圏の荷主企業による本県港湾の利用拡大に向けて、関係者の皆様の相互交流を図ることを目的として開催しています。今年度は、商工労働観光部が岩手県内に拠点のある企業の本社や親会社に対してフォローアップを行うとともに、新規立地や取引拡大を目的に開催している「企業ネットワーク」との合同により「いわてフォーラム」として開催する運びとなりました。

フォーラムの冒頭の達増知事からの挨拶では、「岩手県の“いま”と“これから”」と題し、まずは本県の復興状況の報告と、来場された皆様への復興支援に対する感謝の言葉から始まり、続いて、岩手県の“いま”として、コロナ禍においても感染症対策のもとイベントが再開しつつあることやクルーズ船の寄港を受け入れていることを、そして、岩手県の“これから”として自動車・半導体などの産業集積とこれらの拠点を背後に世界各地へとつながる港湾を紹介しました。

知事挨拶に続き、北上市長、久慈市長、釜石市長、八幡平市長、奥州市長、金ケ崎町長等から、それぞれの市町村の思いが来場者に届けられました。

その後、第2部として情報交換会を開催しました。冒頭では、株式会社ミクコの生田代表取締役社長から「今年度、盛岡事業所が50周年を迎えた。岩手に来て50年、地場企業の意識で地域とともに成長してきたところ。引き続き、皆様とともに地域振興に取り組んでいくとともに、岩手の港湾の活用を検討していきたい。」との応援メッセージがありました。

主催者と来場者の一体感が醸成されるような「いわてフォーラム」となりました。



▲会場の様子



▲達増知事挨拶



▲市町村長等による挨拶



▲(株)ミクコ生田社長による
岩手県への応援メッセージ

県内各地で景観学習を開催しています！

都市計画課

都市計画課では、子どもたちが身近な景観を通じて地域の魅力や課題を発見する体験型学習「景観学習」を実施しています。

令和4年度は5市町8校で景観学習に取り組む予定であり、11月までに7校で実施しています（残り1校は12月までに実施予定）。そのうち3校は今年度が初めての実施であり、県内における景観学習の取組が広がっています！

景観学習とは？

景観学習は、県内の小・中学生を対象に、身近な景観から地域の歴史や文化を理解しながら地域の魅力を感じ取る機会を提供することにより、『①景観とは何かということについて理解を促し、②地域の景観をみんなの共有財産として大切にすることを高め、③地域に対する誇りや愛着心を育み、景観づくりの担い手として自ら考え行動できる人材を育成する』ことを目的とした取組です。

景観学習の流れ(例)



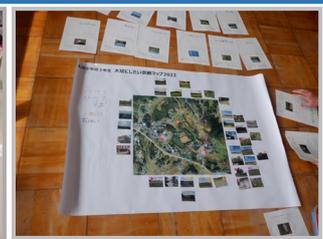
1日目<ガイダンス・まち歩き>

- ・教室で、『景観とは何か』、『まちをどのように見るのか』学びます。
- ・学校の外に出て、一人ひとり『好き』『嫌い』『気になる』などたくさんの景観を自由に撮影します。



2日目<景観シート・マップ作成>

- ・撮影した写真を印刷し、景観シート（①テーマ、②どう思ったか、③タイトル）を作成します。
- ・選んだ景観の撮影位置を地図にプロットし、班毎に景観マップを作った後、意見や感想をまとめます。



令和4年度の実施状況

令和4年度 岩手県景観学習実施校 (R4.11月時点)			
	学校名	学年・人数	実施時期
1	一関市立涌津小学校	4年生 17人	6月
2	雫石市立御所小学校	4年生 18人	7月
3	陸前高田市立矢作小学校	5・6年生 5人	7月
4	紫波町立日詰小学校	5年生 75人	8・9月
⑤	一関市立永井小学校	3年生 15人	9月
⑥	一関市立厳美小学校	3年生 23人	10・11月
⑦	一関市立室根小学校	3年生 24人	11月
8	釜石市立鶴住居小学校	3年生 21人	11・12月予定

○：初めて景観学習を実施した学校

【講師】岩手大学農学部 三宅 諭 教授

【講師】いわてNPO-NET サポート 菊池 広人 事務局長

平成22年度の実施開始から、令和4年11月までに、**15市町村 延べ73校**で実施！

子どもたちからは、「自分の住んでいる地域には、**素敵な場所がたくさんあることが分かった！**」「**カメラで写真を撮るのが楽しかった！**」などの声や、先生方からも「**地域学習に適していてとても良い取組です！**」という感想をいただいています！



景観学習の実施内容については、『景観学習のススメ』を参考にしてください！（**岩手県 景観学習**で検索！）

<https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/toshigesui/machizukuri/1010110/1010114.html>

第20回 岩手「道の駅」スタンプラリーが始まりました！

～ 県内35の「道の駅」を巡ってみませんか ～

道路環境課

1 第20回 岩手「道の駅」スタンプラリー

令和4年11月1日(火)から第20回岩手「道の駅」スタンプラリーが始まりました！

本スタンプラリーは冬期の岩手の道の駅を「買い物で応援」するために始まったもので、今回で20回目の開催となります。令和3年度は、約6千名の皆さまから御応募いただきました。

開催期間 '22.11.1(火)～'23.5.10(水)

応募要項 2023年5月10日(水)当日消印有効
岩手県内の「道の駅」で応募ハガキにスタンプを5個以上集めて応募すると、抽選で道の駅特産品などステキな賞品が当たります。

完走賞 すべてのスタンプ35個で 10,000円相当の道の駅特産品等

A賞 スタンプ20個以上 5,000円相当の道の駅特産品等

B賞 スタンプ15個以上 3,000円相当の道の駅特産品等

C賞 スタンプ10個以上 2,000円分の県内道の駅商品券

いーはとーぶ賞 スタンプ5個以上 1,000円分の県内道の駅商品券

ありがとう!! 第20回記念賞 抽選で200名に 抽選記念切符を発送

最新情報はこちら!
応募要項、イベント情報などもご覧いただけます。
岩手県「道の駅」連絡会 検索

主催：岩手県「道の駅」連絡会
当り期川田農事事務所 副田第二(産産) ☎019-824-3198
三陸自動車道事務所 交通行政課(産産) ☎0193-71-1719
南三陸自動車道事務所 工務課(産産) ☎0193-29-1626
岩手県国土建設部 道路環境課(産産) ☎019-629-5880
又は、各道の駅まで。

■道の駅「錦秋湖」について

国道107号の通行止に伴い営業を休止しておりましたが、令和4年11月30日から営業再開しました。

スタンプは「道の駅の休憩施設」又は「湯夢プラザ(西和賀町川尻40-73-11:JRほっと湯田駅向かい)」の2箇所に設置されていますので、いずれかを御利用ください。

■第20回岩手「道の駅」スタンプラリーの応募方法

- 開催期間 令和4年11月1日(火)～令和5年5月10日(水)
※応募締切 令和5年5月10日(水)当日消印有効
- 応募方法 岩手県内の道の駅に置かれているスタンプ台紙(応募ハガキ)に各道の駅のスタンプを押印し、切手を貼って応募してください(応募は1人1回まで)。
※当選発表は賞品発送をもって代えさせていただきます。
- 各賞について
スタンプ35個(全箇所) → 完走賞10名(10,000円相当の道の駅特産品等)
スタンプ20個以上 → A賞25名(5,000円相当の道の駅特産品等)
スタンプ15個以上 → B賞35名(3,000円相当の道の駅特産品等)
スタンプ10個以上 → C賞50名(2,000円分の県内道の駅商品券)
スタンプ5個以上 → いーはとーぶ賞70名(1,000円分の県内道の駅商品券)
完走賞の抽選に漏れた方 → ありがとう!!第20回記念賞200名(完走記念切符)

★詳細は「岩手県「道の駅」連絡会」ホームページを御覧ください

https://www.thr.mlit.go.jp/iwate/stamp rally/2022_index.html

2 全線開通した復興道路を利用して「道の駅」スタンプラリーにチャレンジ!



仙台市から八戸市を結ぶ三陸沿岸道路は、令和3年12月18日に普代IC～久慈IC間が開通し、**全線が開通**しました。

これにより、**仙台⇄八戸間の移動時間が約3時間20分短縮**され、災害時の移動経路の確保や地域産業の発展が期待されます。

岩手県内の三陸沿岸道路沿線には、道路利用者の休憩施設や地域の魅力を発信する場として**9箇所の道の駅**が整備されていますので、是非お立ち寄りください。

3 新型コロナウイルス感染拡大防止対策への御協力をお願い

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、道の駅来店時は「手指消毒」、「マスク着用」、「お買い物時の距離確保」など、お店からのお願いに御協力をお願いします。

【問い合わせ先】
 岩手県県土整備部道路環境課 維持グループ
 電話：019-629-5879 FAX：019-629-9124 E-mail：AG0004@pref.iwate.jp